

第9期の基本理念・基本目標(案)作成に係るアンケート結果

1 米子市が高齢者にとってどんな「まち」になると良いと思いますか。

- ・できるだけ長くすみなれた所で生活できるまち。
- ・住みやすい(近所づきあいがある、移動に困らない、近くにスーパー・ドラッグストアがある)まち。
- ・医療介護連携(必要な時に使える、誰もが家で療養できる、家で死ぬ)
- ・高齢者と若い人の交流があると良い。
- ・基本目標の達成状況の評価の情報がなければ答えにくい。
- ・住み慣れた地域で最後まで安心して生活が出来るまち。
- ・helpが必要な時、速やかに対応できるまち。
- ・高齢者がその人らしく・安心・安全に暮らせる。
- ・高齢になっても社会貢献ができる街。
- ・いつまでも元気な高齢者が活躍できる場を提供してくれるまち。
- ・高齢者が幸福を感じることができる「まち」。
- ・信頼できる家族や友達がそばにいて、最低の生活が保障されていて、安定した生活、不安のない生活ができるまち。
- ・安心安全なまち。
- ・独居や高齢者のみでも不便なく暮らせるまち。
- ・その人に合った距離感で接してくれる人がいるまち。
- ・受け身だけでなく、高齢者自らも能動的に関われるまち。
- ・いろいろなサービスを受けながら様々な問題を相談できる場所があり日々の生活を充実させることのできる「まち」。

2 1の実現に向け、第9期(令和6年～8年)、どのようなまちづくりが進められると良いと思いますか。

- ・医療、介護、インフォーマルサービスが充実する。
- ・高齢者が元気に生活できるように。
- ・公共交通機関の整備。
- ・自治会の活動をやらなければならない活動ではなく、あって助かる、ちょっと話せる、お互いに見守れるような、誰もが気軽に参加する活動になると良いと思う。
- ・どのようなについては、目標を立ててから具体的な行動目標を立案し、それに沿ったまちづくりを進められると良いと思います。
- ・隣近所との交流を図るような地域での取り組み。地域の全住?を巻き込むような楽しいイベントの企画。
- ・元気な高齢者の活動の場を作ることで「頼りにされている」、「世の中の役に立っている」と思えることで生きがいに繋がる。
- ・空き家対策の1つとして、高齢者が気軽に集まれる場の提供・・・その為の運営資金援助。
- ・災害時に住民の状況把握や避難行動を迅速に行えるようにする。
- ・自分を助けることができるために、update が可能な知識を身につけるために学習する場所が必要だと思う。

- ・食・運動・基礎的な医学的知識、芸術など幅広い環境を整えていく。
- ・社会参加できる健康の維持。
- ・人と人がつながる社会資源の提供。
- ・子供から大人までが、まちづくりを意識できるイベント・情報提供の充実を図る。
- ・認知症になっても支えあい、暮らしやすいまちづくり。
- ・公民館などを活用した多種多様な地域活動。
- ・子供たちや大人に向けて教室の開催や、ボランティア活動、イベントなどを行う。前職の資格や職種を生かして、色々な方に協力してもらおう。
- ・企業にも75歳まで雇用を積極的に行ってもらおう。
- ・4つの柱が機能すると10年後にどんな米子市になっているのか？について具体的に議論していきたいです。目標が決まるといつまでにその目標を達成するか？どうやって達成するか？構築のための話が出来ると思います。
- ・自治会活動、公民館活動のあるまち。小さな単位のまちづくりでないと、高齢者は活動できない。
- ・包括支援センターが、もっと身近に感じられるまち。
- ・こども、おとな、高齢者、障がい者の有無など属性や世代を問わず関わり合い、見守り合うまちづくり。
- ・安心して福祉サービスを受けることが出来るまちづくり。
- ・社会参加しやすいまちづくり。
- ・交通という移動手段でもあるが、高齢者が知りたい情報をすみやかに受けることができ、また一方的に知るだけでなく、高齢者の望んでいることをいろんな機関で検討できる場も必要で地域包括センターの充実が求められる。
- ・人が足りない部分は民間の企業からの取り組みに対する工夫も大切である。
- ・生き生きとした活動を支える地域での声掛けは必要である。

3 2に関連し、ご自身の立場(所属団体等)で取り組みたいこと等についてご回答ください。

- ・在宅医療の充実。
- ・高齢者との交流。
- ・教育機関の立場として、全国的な状況で介護福祉士のなり手不足が深刻です。この状況を何とか打開し、多くの介護福祉士を養成し地域に送り出すことが役割であると思っている。学校としては様々な広報の取り組みは、おこなっています。その強化と、米子市と連携して新たな広報などが何かできるとよいと思います。
- ・日頃は、サロン活動に力を注ぎ住民の特に高齢者の実態把握に努めている。
- ・高齢者が社会との繋がりを持つためのツールの1つとしてスマホを位置づける。
- ・災害時にスマホでいち早く状況把握が出来るよう、地域の社会福祉協議会として「スマホ講座」を年間通して開設中。
- ・食の問題について、60歳を過ぎてから減塩ということについて学んだが、自分自身すでに血圧が高めであり、もう少し早く知っていたらなあと思わずにはいられなかった。知識を増やし、それを実践していくために、どうすればいいか、まだ思考中である。
- ・地域ケア会議への参加と専門職(生活・認知症・役割づくり・環境整備・など)として多職種への助言が可能と考えます。
- ・認知症初期集中支援

- ・リハビリ職種としては、今後災害対策に力を入れていきます。
- ・色々なイベントなどでリハビリの紹介、健康・体力維持、相談(ブース設営など)などのご協力が可能と思います。
- ・働き手の確保→医療関係者向けシルバー人材センターなど。
- ・入院や疾病にかかった場合、医療関係者からのアプローチもしていく。
- ・フレイルは今すぐ対策が必要であると強く啓蒙していく必要がある。(自分には関係ないと思っている高齢者がまだまだいる)
- ・山陰で高齢者世帯視聴率がよさそうな番組にCMや特集などを組み込み、啓発していく。
- ・介護保険サービスと介護保険外サービスの見解を明確化し、安心して併用することが出来る米子市になるために協議していきたいです。
- ・包括支援センターの負担軽減。地域の相談窓口を1本化して、地域に浸透させることも大切だとは思いますが、選択できること、相談や活動の多様化も必要だと思います。
- ・地域サロン・買い物支援事業の拡充。
- ・高齢者が働きやすい仕組みを創りたいです。
- ・高齢者の活動のインセンティブや見える化。
- ・行政だけでなく、民間企業とも知恵を出し合う仕組みづくり。
- ・自治会、公民館単位でフレイル事業等に取り組む時に、情報提供が少ないので、機会あるごとに情報提供して参加者を増やして行く。一緒に活動していく人材を増やすには、ボランティアとしては長続きしないと思う。
- ・サロン活動を増やして行く。医療機関、健康対策課等と一緒に活動して行く。
- ・引き続き高齢者の見守り活動。
- ・医療機関で相談すること、包括センターで相談すること、地域活動の中で相談することが一人の高齢者の中で違うのであれば、各機関の連携を充実させることも必要。地域活動の中での相談ができる場所を作り生き生きと活動できるためにどうしたら良いかその為の取り組みを考えたい。